

資料 5-2

令和 7 (2025) 年 1 月 1 6 日
 総 合 教 育 会 議
 教育総務課・学校教育課

五中と東中の統合に関する説明会〔令和 6 (2024) 年 1 2 月 1 日〕概要報告

1 日 時 令和 6 (2024) 年 1 2 月 1 日 (日) 午前 1 0 時～午後 0 時 5 分

2 会 場 第五中学校多目的ホール

3 出席者

- (1) 参加者 2 4 名
 (2) 事務局 6 名 本間教育部長、田辺教育総務課長、矢沢学校教育課長、
 山之内学校教育課主幹、布施教育総務課長代理、
 茨城教育総務課係長
 (3) 報道 2 名 朝日新聞、柏崎日報

- 4 会議概要 進行 布施課長代理
 (1) 開会あいさつ 本間教育部長
 (2) 概要説明 田辺教育総務課長
 令和 9 (2027) 年度の統合について説明
 (3) 質疑、意見交換 下記のとおり

発言者	発言概要
保護者	東中と五中だけではなく、市としての教育のビジョンを具体的に示してもらいたい。また、アンケートは取り方次第で数字が変わってくるので、アンケートの 1 % を大事に考えてもらいたい。
教育総務課長	市全体で少子高齢化、人口減少が進む中で計画も短くしていかないと時代についていけない。そういった中で、人数的なものとしてある程度の基準はまず持とうとなった。後の考え方については、その時々地域の状況やお子さんの状況等を踏まえながら、1 つ 1 つ丁寧にやっていかなければならないと考えている。
学校教育課長	教育のビジョンについては、教育大綱を土台としている。また、全小中学校に共通して、学校教育実践上の努力点という指針を作成し、毎年課題や成果も踏まえて見直しをしている。
教育総務課長	アンケートについては、1 % の重みということも重々承知している。その上で取らせてもらっている。
保護者	来年 1 月に総合教育会議に諮ると言っていたが、その段階で統合が決定されるのか。
教育総務課長	総合教育会議はあくまでも了解を得る場であり、最終的な判断は、我々が行う。
保護者	市としてはいつ統合との考えをまとめるのか。
教育総務課長	総合教育会議は来年 1 月頃に考えており、了解いただければできるだけ早めに決定させていただき、今年度中に統合に向けた準備に入りたい。

保護者 : 統合の話し合いを再開してから今日で 2 回目だが、教育委員会としては十分に地域や保護者と話し合いをしたとの認識なのか。

教育総務課長 : 不安な点や心配な点があるのはそのとおりかと思うが、我々としてはこれまで皆様からいただいた意見やアンケートの結果を踏まえた中で方針の改訂をしている。その中で進めさせていただきたい。

保護者 : 鯖石小と高柳小が統合し、楮の栽培や卒業証書などを引き継いでいただき、2 年生が高柳地域の訪問をするなど、授業学習も引き継いでもらっていると感じている。五中に関しても今の規模だから卒業証書は和紙で作っているが、例えば東中と統合したときにそういったものが引き継がれるのか不安がある。基本的には学校の方針と思うが、教育委員会としてはどのような考え方でいるか。

学校教育課長 : 統合が決まれば、交流については支援をしていく。統合後についても、東中と確認していきたい。

保護者 : 自分も上越で統合を経験しており、大変だった。息子も集団生活になじめない子なので、大人数の学校に馴染めないときのケアを考えてもらいたい。また、そういう子への在籍校の対応や、それがだめだった場合の学びの多様化学校の事業でケアしてもらえるのか、今後明確にしてもらいたい。

学校教育課長 : 大規模校への統合の不安はよく理解できる。統合に際しては、全校生徒から統合に関する不安や悩みなどを、管理職を含めた教職員が丁寧に聞き取って、支援をしていく。また、五中から東中に引き続き担当する職員もいる。統合を踏まえて、東中の正規の人数よりも多い職員数で対応する。

保護者 : 学びの差について。自らも転校して学びの差を強く感じた。五中で学べたはずの学びが得られないようなことがあるのではないか。五中は少人数だから先生とマンツーマンで丁寧に見てもらえると卒業生の保護者から聞いた。学習の基礎は良い環境で学んでももらいたいと思っている。

学校教育課長 : 各学校生徒や地域に応じて一生懸命取り組んでいる。学びの差は、小規模校だから手厚くという面はあるかもしれないが、大規模校であっても一人一人への支援を軽視してしまうようなことは決してない。
 変化の激しい時代に子どもたちが生き抜いていく力の土台を全ての小学校で大事に取り組んでいる。自分一人の力でできるということを小中学校では大切にしており、生徒たちが自分たちで良い学校にしていこうということも大事になってくる。1 から 1 0 まで先生が手厚くというのはそれと逆行する部分もある。
 また、小規模校や大規模校に関わらず、全ての子一人一人を大切にしているということは理解してもらいたい。

保護者 : 少人数が大人数に吸収されていくと、大きい方に吸収される流れを子どもたちが無意識に感じてしまい、将来大都市に流れて行ってしまうのではないか。東中に五中が来るのではなく、東中の学区が広がり五中の良さが東中にも生まれるという意識を持ってもらえるよう、教育委員会の支援をお願いしたい。
 また、統合が実現した後、統合後の調査もしてもらいたい。子ども達へどんな影響があったのか、五中なら通っていた子が通えなくなったりした場合、そこには何か理由があるはず。それらを今後の統合の検討に活かしてもらいたい。

学校教育課長： 鯖石・高柳の文化・伝統・歴史・地域の特色など、大切にしていこうことについては、教育委員会としても継続して支援していきたい。また、統合後の生徒の心のケアもしっかりやっていこう支援していく。

教育総務課長： 学校統合と地域づくりについて、できれば地域に学校を残したいが、少子化が想像以上のペースで進んでいる。そのため、地域づくりと教育環境を同時に考えると、子どもたちの教育環境の方を先に向上させていかなければならない状況にある。御理解いただき、一緒に考えてもらいたい。

保護者： 今後、地域で集まることもないので、今日が貴重な機会である。賛成・反対あるだろうが、この場にいる皆さんから一言でもいいので意見をいただきたい。
まず自分の意見だが、地域に五中を残してもらいたい。大きな学校に馴染めずに小規模だから通えるという子のために、残してもらいたい。
では、マイクを回すので意見ををお願いしたい。

地域住民： 五中・東中の統合は、やむを得ないと思っている。もう良い悪いという問題ではないと理解している。

地域住民： 統合はやむを得ないと思う。目いっぱい愛情を注いで東中に送り出してもらいたい。

保護者： 統合には反対である。小規模校の検討はしなかったのか。むしろ小規模の学校を増やしてもらいたいと思っている。

地域住民： 賛成とも反対とも正直分らないが、高柳中と五中が統合したことで学びが豊かになったと思う。地域づくりとして考えると、地域に学校がないと寂しいし、マイナスだと思う。

保護者： 3年前に移住してきた。高柳で子育てできるのだと思っていたが、皆無くなってしまった。じゃあ鯖石で子育てするのだと思ったらそれも無くなってしまう。統合したとしても高柳・鯖石地区で子育てできると考えるように考えていただきたい。
また、こんなに遠くなるのなら学区外就学で松代に通うこともできるのか。

教育総務課長： 基本的には市町村の中で考えてもらうことになる。
また、先ほど小規模校を考えなかったのかという意見があったが、中学校では小規模校を残すということは考えていない。中学校は子どもたちが一番大きく成長する時期であり、一定の数が必要との考えである。

保護者： 残してもらいたい、やむを得ないとも思う。小規模校から大人数の学校に行く不安も当然あると思うが、大きな学校の良さもあると思っている。2年を掛けて統合していった、心のケアも含めて、学校の方でも頑張っていたいただきたい。

保護者： 統合には反対。しかし、もうそういう段階ではない気がする。考え方は異なるが、子どもたちのためにというゴールは教育委員会と同じなので、少しずつすり合わせていきたい。

保護者： 五中は残してもらいたい。やはり遠い。高柳から鯖石小に通っている4人は目まぐるしく環境が変わる。その子たちには負担である。

保護者： 秋田から移住してきた。この地域に魅力を感じて移住して子育てをしている。教育委員会が目指す統合という形ではなく、逆の価値観で、この土地性の中に教育が点在しているような自治体になってほしい。

保護者： 統合には反対だが、個別の事情があるので、この場ではなく個別で相談させてもらいたい。

保護者： 地域から保育園・小学校とどんどんなくなってしまった。統合はしなければならないのだろうが、個人としては反対である。

保護者： 統合には反対ではない。2年間で東中としっかり交流を深めてもらいたい。

保護者： 通学時間は短い方が良いと思うので反対である。

地域住民： 五中で門出和紙を卒業証書に使用しているが、門出の風土を学習した上で渡されることで良さが分かってもらえる。仮に東中でも引き継ぐということになれば、そういった学習も含めて引き継いでもらいたい。
東中にも「五中が来る」のではなく「東中と五中が一緒になる」と考えてもらいたい。

保護者： 気持ちは反対だが、仕方ない部分もあると思っている。
今回の説明では、スクールバスの運行基準、遠隔授業の検討についての情報が不足している。もっと具体的になっていかないと保護者の不安は拭えない。今後それらを明確に示してもらいたい。
また、部活動が地域移行になる中で、子どもたちの1日のタイムスケジュールがどのようになるかシミュレーションが必要になってくる。その上でどういう通学の体系であればストレスを低減できるかなどの情報提供や検討内容の共有をしてもらいたい。

地域住民： 子どもたちは大変だと思うが、この経験を生かして成長してもらいたい。地域としては、環境が変わっても支援していきたい。

地域住民： 通学距離が長いとその分帰ってからの時間がなくなり、習い事などの制約を受ける。五中を残したまま教育センター機能を持ってくればよい。地域では、「なぜ建て替えたのか、無駄遣いではないか」との声がある。

教育総務課長： いただいた意見の中でスクールバスや学習保障といった点は、考えていきたい。今回のような大雨となった際にどうすれば皆さんに伝えられるか、大雪でマイクロバスが動けなくなった場合にどう伝えるか、運行できるかどうかを事前に判断できるか、運行できないとなった場合に例えばタブレットを使って授業ができるかなど検討を始めている。
また、なぜ建て替えたのかとの御意見については、我々とするで作らざるをえなかった。旧南鯖石小学校は小学校の基準で作られており子どもたちには小さく、旧校舎は耐震構造上使えない状況だった。その中で、地域の皆様の検討委員会から、統合ではなく作ってほしいとの意見をいただき、やはりその当時も子どもたちにとって最善の教育環境をどうするかを考え、判断した。振り返れば、なぜこんな良い校舎となるかもしれないが、その当時は地域の皆様にとっても最善の選択をさせていただいたと考えている。

学校教育課長： 参考に各学校を受け持っている教員の人数だが、第五中学校は7人で5教科に音楽・体育1人ずつである。それに対して東中学校は20人となっている。教科部会として複数人でどのようにその教科を作っていくかを相談しあって考えている。こういったことも子どもたちの力には関係してくると思われる。

本間部長 : 地域・保護者の皆さんの非常に辛い気持ちや不安は良く分かる。しかし、これまでも説明してきたように、子どもたちにとって最も良い教育環境のため提案だと御理解いただきたい。

本日いただいた様々な声は、総合教育会議でもお伝えして、その上で統合について意見をいただく。その結果については、なるべく早い段階でお伝えしていきたい。

以上